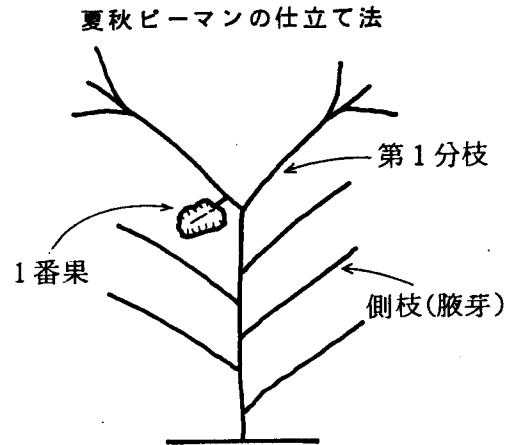


1 夏秋ピーマンの仕立法 (園試 野菜花き部)

第1次分枝の下部から発生する側枝
(腋芽)を取り除く程度に整枝する。

(図)

この仕立法により着色不良果(淡緑色)が減少し、良果収量が増加する。



(1) 背景とねらい

本県の夏秋ピーマンの栽培は、昭和52年より急激に増加し、55年は約200haとなっている。しかし、栽培の主体は露地栽培で、仕立法は導入当時から明らかでなく、放任栽培や先進地のハウス栽培の整枝法などがとり入れられていたため、収量・着色不良果(淡緑色)の発生などで問題が多かった。昭和53年に課題化の要望もあって、54年から本試験を実施し、一応の成果が得られたので指導上の参考に供する。

(2) 技術内容

① 第1分枝の下部から発生する側枝(腋芽)を取除く程度の整枝とする。この仕立法により着色不良果(淡緑色)が減少し、良果収量が増加する。

② 適応地域 県下全域

(3) 指導上の留意点

① 適用する作型は5月下旬～6月上旬定植の露地栽培に限定する。

② 側枝(腋芽)の除去は早目に行い、再発生した側枝も早目にとり除く。

(4) 試験成績の概要

① 試験課題名 夏秋ピーマンの仕立法試験

② 試験年次および場所 昭和54～55年 岩手県園芸試験場 野菜花き部

③ 試験方法

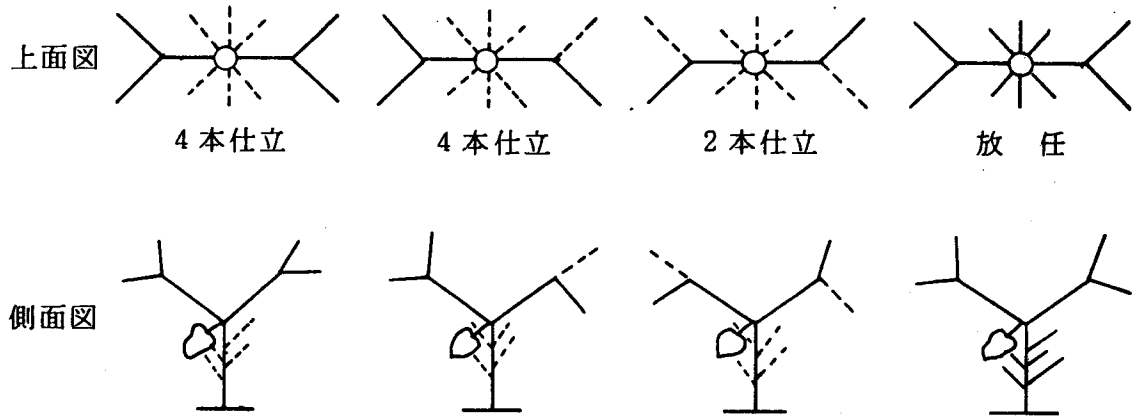
1) 供試条件

① 4本仕立(主枝4本とし、第1分枝の下部より発生する側枝を摘除した。)

② 3本仕立(主枝4本のうち、1本と第1分枝の下部より発生する側枝を摘除した。)

③ 2本仕立(主枝4本のうち、2本と第1分枝の下部より発生する側枝を摘除した。)

④ 放任



※ 整枝時期 54年6月18日、55年6月12日

- 2) 供試品種 土佐グリーンB
- 3) は種期および定植期 3月10日 5月28日
- 4) 栽植距離 昭和54年 畦幅 90 cm 株間 45 cm
" 55年 " 120 cm " 45 cm
- 5) 誘引方法 針金水平張り (株の両側に針金を高さ 50 cmに張る。)
- 6) マルチの種類 昭和54年 黒色マルチ
55年 シルバーストライプマルチ
- 7) 施肥量 (10 a 当り kg) N - 27.8 P₂O₅ - 26.2 K₂O - 27.8

④ 試験結果

昭和54年

- 1) 草丈は7月3日までの調査では差がみられなかったが、7月19日以降で放任区が勝る傾向がみられた。また枝の開張はいずれの調査でも最小で、主枝の少ない区ほどせまい傾向がみられたが、最大では大差はみられなかった。(第1表)
- 2) 時期別収量は6月末まででは放任区が多く、7月・8月の収量では良果個数で4本仕立が放任区より7月で12.5%、8月8.2%多く2本仕立が最も少なかった。
9月の収量は放任区が最も多く、ついで2本仕立、4本仕立の順で3本仕立が少なく、10月では2本仕立、放任区が多かった。(第2表・第1図・第2図)
- 3) 総収量は4本仕立、放任区がほぼ同じで他の区より良果で約9%多かった。また3本仕立、2本仕立の差はなかった。(第3表)
- 4) 果実品質は黒変化の発生が3本仕立でやや少なかった。果色は観察結果ではあるが、過繁茂時の7月下旬から放任区に淡緑色の着色不良果(B品)が多く発生した。(第2表)

昭和55年

- 1) 草丈、枝の間張とも6月18日以降の調査で放任区が勝り、4本仕立、3本仕立との差は少なかった。収穫終了時(10月20日)の生育で放任区の第1分枝の下部から発生した側枝(腋芽)の

発生は1株当り8.3本、側枝の長さでは長いもので70cmあり、過繁茂状態であった。

(第5表・第6表)

2) 時期別良果収量は6月末までで、放任対比で4本仕立で83.3%、3本仕立で85.4%と少なかった。7月では4本仕立が109.2%と多く、3本仕立は83.0%と少なかった。8月の収量は4本仕立が112.3%、3本仕立が111.6%と多く、9月では4本仕立が112.3%、3本仕立が108.6%と多かった。10月では4本仕立が127.7%と多く、3本仕立は87.9%と少なかった。(第7表・第3図・第4図)

3) 総収量(良果個数)4本仕立が14.1%増収となったが、3本仕立は放任とやや同じであった。また着色不良果(B品)は放任対比、4本仕立が38.0%、3本仕立が35.2%と少なかった。

良果と着色不良果の合計収量では重量で、放任対比で4本仕立は8%、3本仕立で16%減収した。(第7表・第8表)

4) 果実品質は黒変果の発生が3本仕立でやや多く、果色では放任区で着色不良果(B品)が約2.5倍発生した。(第7表・第8表)

(5) 主要成果の具体的データ

表1 時期別収量(10株当り)(昭和54年)

項目 試験区 及び収穫期	良果		乱形果		尻ぐ され 果数	タバ コガ 被害 果数	黒変 果数	病害 果数	合計 果数	良果(個数)		
	個数	重量(g)	個数	重量(g)						累計	同左 放任比	対放 任比
4 本 仕 立	6/16~30	14	374	3.5	103				17.5	14	80.0	80.0
	7/1~31	216	6853	9.5	296		1.5	5.5	234.0	230	109.8	112.5
	8/1~31	317.5	10255	16.5	550		5.0		340.5	547.5	108.9	108.2
	9/1~30	233	6792.5	30.5	850		27.5	12.5	309.0	780.5	102.1	89.0
	10/1~20	62	1600	25.5	585	0.5	12.0	13.0	114.0	842.5	101.6	96.1
全 期	842.5	25874.5	85.5	2384	0.5	46.0	31.0	9.5	1015.0			161.6
3 本 仕 立	6/16~30	15.5	405	2.5	50				18.0	15.5	88.6	88.6
	7/1~31	200.5	6574	5.5	161.5		0.5	3.5	210.5	216	103.1	104.4
	8/1~31	294.5	9442	18.5	602.5	0.5	4.5		320.5	510.5	101.5	100.3
	9/1~30	189.5	5391	38	957		25.0	11.5	275.0	700	91.5	72.4
	10/1~20	54.5	1062.5	22.5	310	0.5	10.0	7.5	96.5	754.5	91.0	84.5
全 期	754.5	23414.5	87.0	2081.0	1.0	40.0	22.5	15.5	920.5			91.0
2 本 仕 立	6/16~30	12.5	324.5	2.5	33				15	12.5	71.4	71.4
	7/1~31	152.5	4638	3.5	105			6	162	165	78.8	79.4
	8/1~31	290	9571	12	409.5		3		311	455	90.5	98.8
	9/1~30	235	7095	34	910		37	11	332.5	690	90.2	89.8
	10/1~20	67	1830	47.5	1095	3	11.5	15	145	757	91.3	103.9
全 期	757.0	23458.5	99.5	2252.5	3.0	51.5	32.0	22.5	965.5			91.3
放 任	6/16~30	17.5	460	3	99				20.5	17.5	100	100
	7/1~31	192	6439	11	304		0.5	1.5	205	209.5	100	100
	8/1~31	293.5	9706.6	12.3	438	0.5	4		310.3	503	100	100
	9/1~30	261.8	7614.5	23.5	597.5		34.9	17.8	343	761.8	100	100
	10/1~20	64.5	1688	32.5	705.5		14	9.5	120.5	829.3	100	100
全 期	829.3	25908.1	82.3	2144.0	0.5	53.4	28.8	5.0	999.3			100

表2 品質割合 (昭和54年)

試験区 \ 項目	良果	乱形果	障害果数	計
4本仕立	83.0	8.4	8.6	100
3本仕立	82.0	9.4	8.6	100
2本仕立	78.4	10.3	11.3	100
放任	83.0	8.2	8.8	100

図1 10株当り収量 (昭和54年)

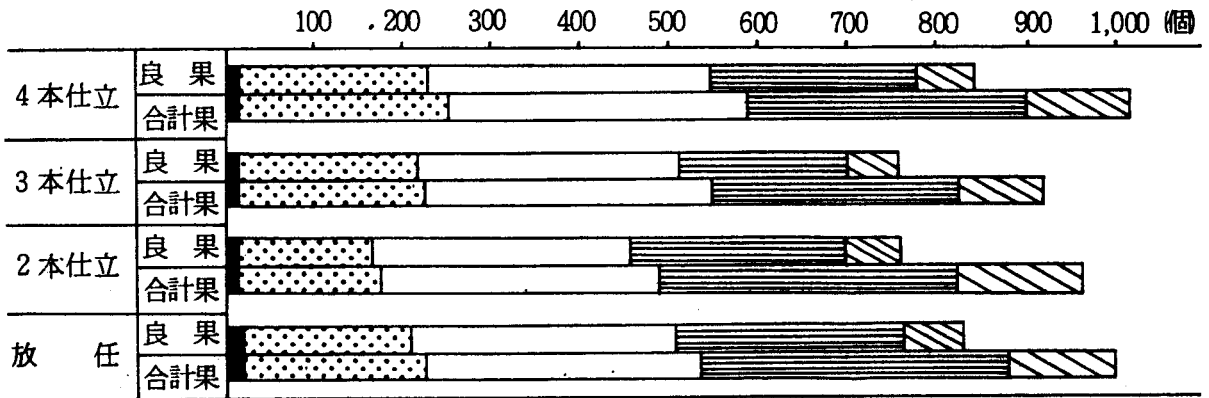


図1 良果の時期別累計収量 (昭和54年)

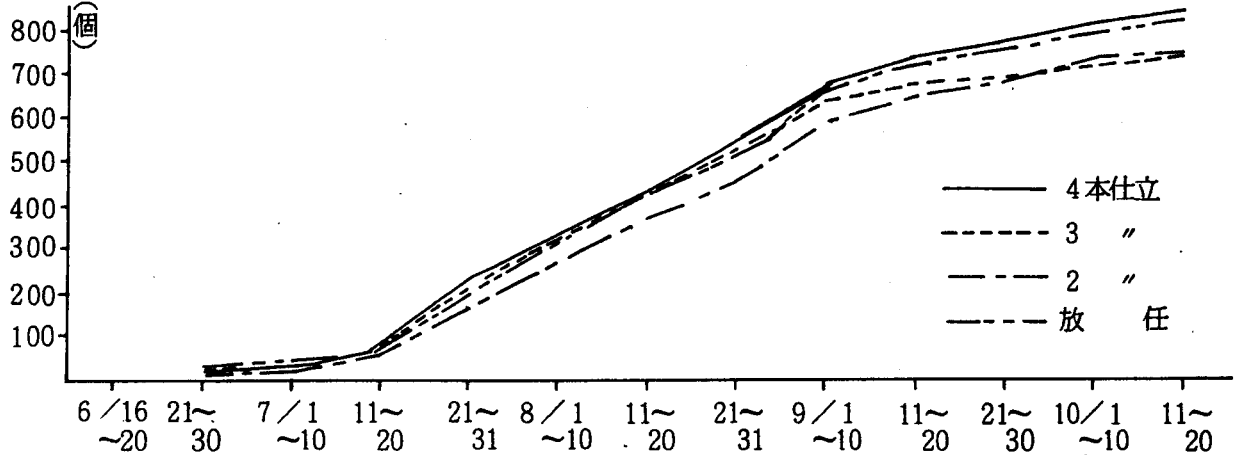


表4 収穫打ち切り時の側枝の生育 (昭和55年)

試験区 \ 項目	側枝数	側枝長 (cm)		
		最大	最小	平均
4本仕立	0	-	-	-
3本仕立	0	-	-	-
放任	8.3	70.0	6.0	34.2

※側枝…第1分枝の下部から発生した側枝 (腋芽)

※10月20日調査

表5 品質割合（個数）（昭和55年）

試験区	項目	良果	着色不良果	乱形果	障害果	計
4本仕立	良果	79.7				
	着色不良果		10.0			
	合計			7.9	2.4	100
3本仕立	良果	74.8				
	着色不良果		10.1			
	合計			11.1	4.0	100
放任	良果	64.4				
	着色不良果		23.2			
	合計			9.2	3.2	100

図3 10株当り収量（昭和55年）

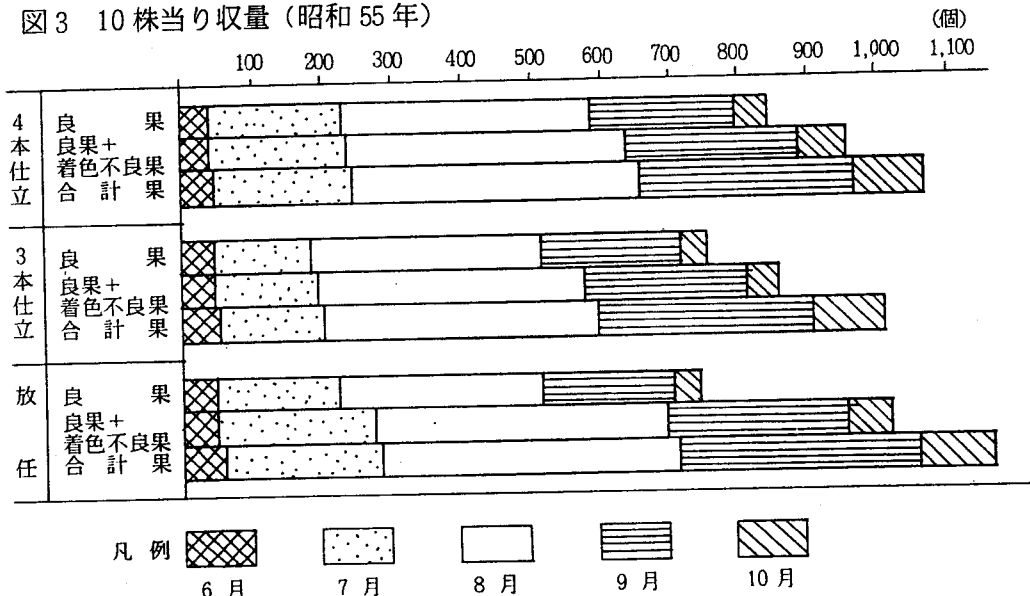
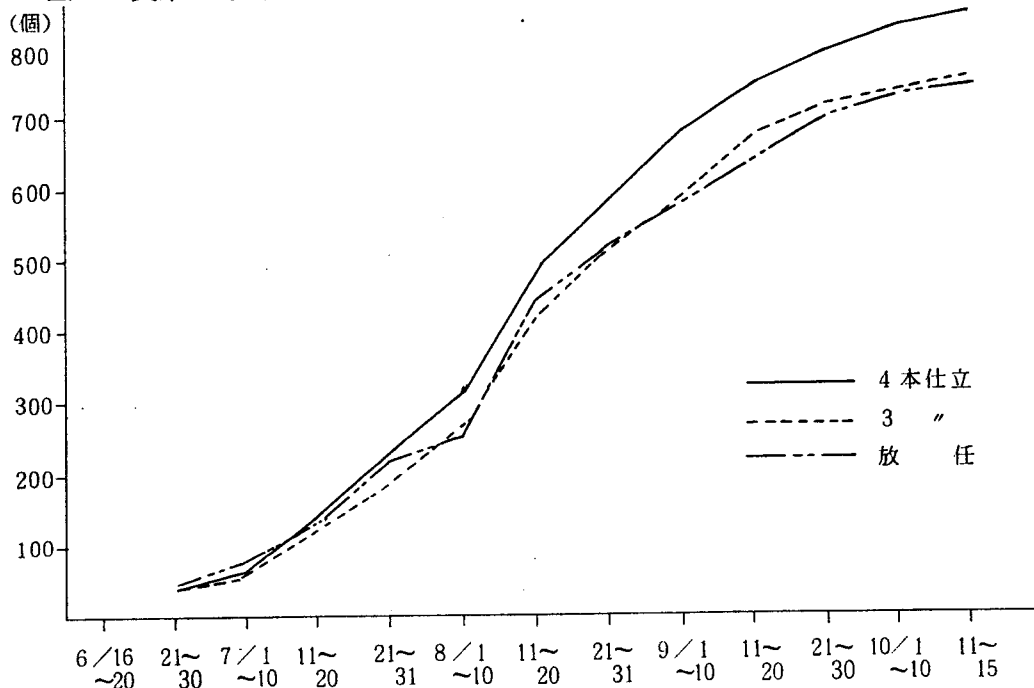


図4 良果の時期別累計収量（昭和55年）



(6) 残された問題点

- ① 作型別による整枝法の検討
- ② 収穫最盛期（8月）の収穫量調整のための整枝法